2026 年度
講義概要(シラバス)
1 年生

松江総合医療専門学校

作業療法学科

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活 社会の理解	心理学	2	1	前期

担当教員	杉原　純子	実務経験	作業療法士として臨床現場に従事

内　　容	心理学が一体どのような学問体系をもっているのか、その歴史と方法を理解し、次いで心理学の基本的な研究領域やテーマについて学習する。実際の授業では、予定表のように項目を固定的に網羅してすすめるのではなく、日常の社会的事象から問題を取り上げたり、受講生の興味や関心、あるいは疑問に応えながらテーマや進度の時間配分を柔軟に工夫したい。また、将来の職業生活において役立つような心理学的知見を学習するようにしたい。
到達目標	①　歴史について説明できる。 ②　防衛機制と転移について説明できる。 ③　学習，記憶，行動について説明できる。 ④　児童・青年期心理について説明できる。 ⑤　成人・高齢者心理について説明できる。 ⑥　患者・障害者心理について説明できる。 ⑦　臨床心理検査法について説明できる。 ⑧　心理療法およびカウンセリングについて説明できる。

授業計画

1	心理学とは・心理学の歴史・知覚について
2	記憶・学習について
3	発達心理学　発達とは・発達段階と発達課題について
4	乳児期・幼児期について
5	児童期・青年期について
6	成人期・老年期について
7	防衛機制
8	心理検査
9	特殊心理療法
10	性格分類について
11	障害の受容過程
12	記憶と学習
13	転移感情
14	心理発達段階
15	ライフサイクル、まとめ

教 科 書 参 考 書	教科書:系統看護学講座　基礎分野　心理学　医学書院,電子版
授業方法	講義
使用機材	パソコン、プロジェクター
成績評価	定期試験(100%)
留 意 点	心理学は人間を理解し支援する様々なルートの 1 つである。人はそれぞれ自分の内面を観察したり、自分と対話をして自分を理解しようとする。また、他者の行動を観察・推論して、直感的・経験的に多様な他者を理解している。しかし、本当の意味で人間を理解するには、直感的・外見的な印象だけに頼っているとすればその理解は不十分である。心理学の各分野・領域から自他の人間理解と支援のルートを探索し、その学習効果を将来の医療・福祉の現場で役立ててもらいたい。

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活 社会の理解	倫理学	2	1	前期

担当教員	川島　典子、杉原　純子 雲田　耕治	実務経験	産経新聞大阪本社 社会部記者等 作業療法士養成校の教員として業務に従事

内　　容	本講義は、医療・保健・福祉の現場において専門職として従事するにあたり必要な職業倫理および人間の人権や尊厳全般について学ぶことを講義の目的としています。ノーマライゼーションやユニバーサルデザインなどの人権に関する基本的理論を学んだ上で、貧困問題・児童・障がい者・高齢者・女性・外国人などの具体的な人権問題にふれ、さらに、現場での利用者援助の基本的原則と倫理についても講義していきます。ロールプレイやグループワーク、グループディスカッションも行う参加型の講義です。理学療法士・作業療法士は、主に、脳梗塞や脳内出血、交通事故などにより身体が麻痺し、高次脳機能障害などに陥った利用者さんなどを、専門的技能と知識に基づき支援します。その人や家族に寄り添い、利用者さんの今までの人生や人間としての人権と尊厳を尊重した上で、より良い生活の質を保持し、生きがいを持って生きることができる支援の根幹となる倫理について共に学んでいきましょう。
到達目標	①　生命や人の尊厳を守ることができる。 ②　生命倫理、医療倫理、臨床倫理等の関連領域の理論の動向が理解できる。 ③　医療・作業療法における倫理に関する規範・原則や指針について説明できる。 ④　医療の進歩に伴う倫理的課題の動向について説明できる。 ⑤　医療や作業療法の現場における倫理的課題と解決方法について説明できる。 ⑥　多職種間での情報共有時の配慮について説明できる。 ⑦　情報の開示に関する法的根拠と注意点を説明できる。

授業計画

1	講義概要の説明	杉原　純子
2	多様な障がいの特性の理解と倫理①(あいサポート運動)	杉原　純子
3	多様な障がいの特性の理解と倫理②(あいサポート運動)	杉原　純子
4	小論文の書き方講座	杉原　純子
5	新聞の読み方講座	杉原　純子
6	1［貧困と人権］　北九州おにぎり餓死事件・貧困と健康との関連など	雲田　耕治
7	2［児童と人権］　児童虐待・いじめ・不登校・青少年の自死など	雲田　耕治
8	3［障がいと人権］ICF による障がいの定義・障がいを持つ人たちと共に	雲田　耕治
9	4［高齢者と人権］高齢社会の現状・高齢者虐待・高次脳機能障害の支援	雲田　耕治
10	5［女性と人権］ジェンダーの概念・貧困化する高齢女性・女性支援施策	雲田　耕治
11	専門職としての職業倫理、研究倫理について	雲田　耕治
12	倫理学とは何か、倫理を支える概念	川島　典子
13	高齢者福祉における法と倫理	川島　典子
14	ジェンダーとソーシャルワーク（援助の基本と倫理）	川島　典子
15	まとめ	雲田　耕治

教科書 参考書	木原活信（2014）『社会福祉と人権』ミネルヴァ書房
授業方法	講義
使用機材	人権学習に関する DVD など
成績評価	定期試験と小レポート
留意点	教科書とノートを持ってきて下さい。私語・居眠りは厳禁です。真剣に臨み、共に考える講義にしましょう。

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活 社会の理解	教育人間学	2	1	前期

担当教員	石倉　健一、杉原　純子	実務経験	作業療法士養成校の教員として業務に従事

内　　容	論理的思考の過程や多角的な視点で物事を捉える考え方を学ぶ。また、医療従事者として、生涯にわたって学ぶ姿勢の必要性や対人技法について実践を通して学習する。

到達目標	対人技法の基礎を理解し、実践できる。 地域についてリサーチし、フィールドワークを通じて、その成り立ちについて知ることができる。 地域を活かした作業療法プログラムを立案できる。

授業計画

1	オリエンテーション、教育とは何か　ー教育と学習ー	石倉　健一
2	医療人としての服装と態度・表情、礼節とマナーについて	石倉　健一
3	障害体験①	石倉　健一・杉原　純子
4	障害体験②	石倉　健一・杉原　純子
5	松江研修概要説明	石倉　健一・杉原　純子
6	事前学習（グループ）～松江の文化観光をめぐる＆バリアフリー研修～	石倉　健一・杉原　純子
7	事前課題（グループ）～松江の文化観光をめぐる＆バリアフリー研修～	石倉　健一・杉原　純子
8	松江を知る～松江堀川めぐり～	石倉　健一・杉原　純子
9	松江を知る～松江歴史館～	石倉　健一・杉原　純子
10	松江を知る～国宝松江城～	石倉　健一・杉原　純子
11	松江を知る～武家屋敷周辺～	石倉　健一・杉原　純子
12	松江バリアフリー研修振り返り、事後課題、まとめ	石倉　健一・杉原　純子
13	松江バリアフリー研修振り返り、事後課題、まとめ	石倉　健一・杉原　純子
14	松江バリアフリー研修振り返り、事後課題、まとめ	石倉　健一・杉原　純子
15	発表	石倉　健一・杉原　純子

教 科 書 参 考 書	これで解決!　PTOTST 臨床実習まるごとガイド　電子版
授業方法	講義、演習
使用機材	パソコン、プロジェクター
成績評価	レポート課題、発表
留 意 点	

科目区分	教育内容	科 目 名		単位	学年	時期
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活 社会の理解	物理学		2	1	後期
担当教員	水野　薫	実務経験	大学教員として大学，専門学校における 教育経験あり			
内　　容	作業療法士にとって必要な物理学（力学）の基礎的概念（速度，加速度，力，運動量，エネルギー等）や計算力を身につける事を目的とします。力学的な現象は日常生活において毎日のように体験していますが，速度や加速度といった直感的・体感的に理解できる概念が難しそうな定義や数式で表されているため，難解な学問としてのイメージを持たれています。そこで，日常生活で体験する物理学的な事例を取り上げ，数式にとらわれず具体的なイメージをもてる様に講義します。					
到達目標	本講義では国家試験に出題される物理学（力学）の問題の正解を導き出せる事を到達目的とします。そのためには，移動距離，速度，加速度，質量，力，運度量の定義と概念の理解，さらにこれらを計算で求めることが要求されます。以上に加えて，運動量保存の法則と仕事，仕事率，運動エネルギー，位置エネルギー，力学的エネルギー保存の法則の理解も必要です。講義では問題演習を高頻度に実施して，自分の手で実際に計算して結果を求めてもらいます。					

授業計画

1	講義内容と成績評価のガイダンス，単位の変換
2	グラフによる運動の表現
3	速度は位置の変化の割合
4	平均速度と瞬間速度
5	加速度は速度の変化の割合
6	等加速度運動をする物体の速度と位置の求め方
7	自由落下は等加速度運動
8	微分・積分の考え方を用いた速度・加速度・移動距離の関係
9	力と加速度
10	運動の三法則
11	運動量と運動量の保存則
12	エネルギーは蓄えられている仕事量
13	力学的エネルギーの保存則
14	モーメントと釣り合い，テコ
15	国家試験に出題された問題の解説

教 科 書 参 考 書	看護・医療技術者のためのたのしい物理 中野正博著　オーム社　1997/4　2750 円　ISBN 489019018
授業方法	講義内容の骨子を書いたプリントを前もって配布します。講義中は説明を聞き，内容の理解に努めて下さい。なお，授業は講義主体ですが，理解度を高めるために問題演習を随時行います。講義中に行った演習問題は必ず次回までに復習してください。物理学は積み上げ型の学問体系をしています．一度つまずくとそれ以後は理解が難しくなります。
使用機材	パソコン，液晶プロジェクター
成績評価	定期試験において 100 点満点で評価します。合格最低点は 60 点です．欠席や遅刻（30 分まで，それ以降は欠席）・早退による減点は行いませんが，定期試験の受験資格として，10 回以上の出席を必要とします（早退・遅刻は 0.5 回の欠席として扱います）。
留 意 点	高校での”物理学基礎”の履修および微分と積分の知識を前提としません。 質問時間の予約用メイルアドレス miuzno@riko.shimane-u.ac.jp

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活 社会の理解	統計学	2	1	後期

担当教員	小林　裕太	実務経験	大学教員として大学、専門学校における 教育経験あり

内　　容	健康や疾病にかかわる多くの現象は、数値化することによって客観的に理解することができ、その影響を科学的に推定することが可能となる。ここでは、評価や研究の基礎となる統計学を学ぶ。

到達目標	①統計の考え方について必要な事項を説明できる。 ②統計処理の方法について重要な事項を説明できる。 ③健康や治療にかかわるデータを統計処理する場合に適用すべき統計の方法を判断できる。 ④平均、分散、関連など基礎的な統計処理を行うことができる。

授業計画

1	統計学を学ぶにあたって、統計資料の整理
2	度数分布と平均値
3	正規分布と標準偏差
4	確率と確率分布
5	標本分布
6	回帰と相関
7	推定
8	検定
9	χ^2 検定、正確確率検定と 1 試料検定
10	平均の差の検定
11	ノンパラメトリック検定
12	多試料検定
13	検定の進め方
14	標本調査法
15	研究の進め方

教 科 書 参 考 書	やさしい医療系の統計学（医歯薬出版）
授業方法	講義
使用機材	
成績評価	講義の際の小テスト（40％）とレポート（10％）、最終試験（50％）で評価する。
留 意 点	

科目区分	教育内容	科 目 名		単位	学年	時期
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活 社会の理解	情報処理実習		1	1	前期
担当教員	石川　謙二	実務経験	病院、会社等でのシステム作成、運営、管理の実務経験あり。			
内　　容	Word　基本的な文書の作成・図・オートシェープを使った作図・表の作成 Excel 表計算の基本					
到達目標	パソコン操作とWordによる文章の作成					

授業計画

1	PCの取扱いについて
2	簡単な文章を作成してみる。文章の装飾・保存・読出し
3	文書に図を挿入する 1
4	オートシェイプを使って作図
5	表の挿入 1
6	表の挿入 2
7	インデントを使って文章を作成 1
8	インデントを使って文章を作成 2
9	Excelの簡単な使い方
10	Excel 簡単な関数を使う 1
11	Excel 簡単な関数を使う 2
12	ExcelとWordをリンクして使う 1
13	ExcelとWordをリンクして使う 2
14	実際にレポートを作成してみる 1
15	実際にレポートを作成してみる 2

教科書 参考書	
授業方法	講義、演習
使用機材	パソコン
成績評価	指定時間内に、指定したWord文章の作成
留意点	

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活 社会の理解	英語Ⅰ(Reading,Writing)	2	1	前期

担当教員	林 満	実務経験	英語教諭として、高等学校にて講師経験あり

内　　容	将来従事する作業療法士としての一般教養および医療福祉関係の内容を英文で読み、主として Reading と Writing の向上をめざす。

到達目標	臨床現場で触れることのある英文に慣れる。 医療関連の文章の Reading と Writing ができるようになる。

授業計画

1 2	Unit 1.　General ideas of health
3 4	Unit 2.　Polyphenol
5 6	Unit 3.　Reducing your smartphone use
7 8	Unit 4.　AI in healthcare
9 10	Unit 5.　Japan`s school lunches
11 12	Unit 6.　Avoiding foods with hidden sugar
13 14	Unit 7.　Periodontal disease
15	復習

教 科 書 参 考 書	A Healthy Life for Today and Tomorrow　明日を生きるこころとからだ
授業方法	講義及び演習
使用機材	英和辞書を必ず持参する。
成績評価	定期試験を重視するが、平常の授業活動も考慮する。
留 意 点	授業は予習を前提に行います。

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活 社会の理解	英語Ⅱ(Listening)	2	1	後期

担当教員	林 満	実務経験	英語教諭として、高等学校にて講師経験あり

内　　容	将来従事する作業療法士としての一般教養および医療福祉関係の内容を英文で読み、主として Reading と Listening の向上をめざす。

到達目標	臨床現場で触れることのある英文に慣れる。 医療関連の文章の Reading と Listening ができるようになる。

授業計画

1 2	Unit 8.　Creative l:festyle
3 4	Unit 9.　The power of pets
5 6	Unit 10. Healthcare Policy
7 8	Unit 11. Healthcare Profession
9 10	Unit 12. Natural hot springs
11 12	Unit 13. Sleep debt
13 14	Unit 14. Alzheimer`s disease
15	Unit 15. 復習

教 科 書 参 考 書	A Healthy Life for Today and Tomorrow　明日を生きるこころとからだ
授業方法	講義及び演習
使用機材	英和辞書を必ず持参する。
成績評価	定期試験を重視するが、平常の授業活動も考慮する。
留 意 点	授業は予習を前提に行います。

科目区分	教育内容	科 目 名		単位	学年	時期
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活 社会の理解	保健体育		1	1	前期
担当教員	石倉　健一	実務経験	作業療法士として、公民館等、各種施設で体操講師経験あり			
内　　容	自分自身の健康の保持、増進、体力の向上をはかるとともに、運動の意味や効果の理解、運動することへの自覚を促進させる。					
到達目標	・みんなで楽しみあいながら行うことを経験する。 ・体力に応じたスポーツの方法を理解する。 ・コミュニケーションスキルの向上を目指す。					

授業計画

1	オリエンテーション
2	ニュースポーツの実際①
3	ニュースポーツの実際②
4	ニュースポーツの実際③
5	ニュースポーツの実際④
6	ニュースポーツの実際⑤
7	ニュースポーツの実際⑥
8	スポーツ大会準備①
9	スポーツ大会準備②
10	スポーツ大会①
11	スポーツ大会②
12	スポーツ大会③
13	スポーツ大会④
14	護身術①
15	護身術②

教 科 書 参 考 書	教科書:無し
授業方法	実技
使用機材	
成績評価	出席状況、受講態度等を考慮して総合的に評価する。
留 意 点	

科目区分	教育内容	科 目 名		単位	学年	時期
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活 社会の理解	レクリエーション実習		1	1	後期
担当教員	三井　律子	実務経験	公民館等、各種施設で体操講師経験あり			
内　　容	身体運動の方法を学習し、健康の保持、体力の向上を図る。 また、障害者スポーツについて学習・経験を行い、障害者スポーツを実施する上での注意点を学ぶ。					
到達目標	①　レクリエーションの基礎を理解し、説明できる。 ②　各レクリエーション実施上の注意点を説明できる。 ③　障害に合わせたレクリエーションの適用方法について説明・模倣ができる。					

授業計画

1	レクリエーションの定義・効用・心得について
2	グループゲームの実際①
3	グループゲームの実際②
4	コートスポーツの実際①
5	コートスポーツの実際②
6	コートスポーツの実際③
7	対人スポーツの実際①
8	対人スポーツの実際②
9	対人スポーツの実際③
10	障害者スポーツの実際①
11	障害者スポーツの実際②
12	障害者スポーツの実際③
13	健康と体力について①
14	健康と体力について②
15	後期まとめ

教 科 書 参 考 書	教科書:無し
授業方法	実技
使用機材	各スポーツに必要な用具
成績評価	出席状況、受講態度等を考慮して総合的に評価する。
留 意 点	

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	解剖学Ⅰ（骨格系・筋他）	2	1	前期

担当教員	石倉　健一 田中　雅文	実務経験	作業療法士として臨床現場に従事

内　　容	リハビリテーション医学を学ぶためには、人体の構造に関する解剖学の知識は必須である。解剖学は基礎医学科目の1つで、身体の構造を学ぶ学問であり、身体の機能（生理学）とも密接な関係にある。 本講義では、マクロ解剖学を中心にして、組織学、発生学、体表解剖学の知識も織り交ぜながら、リハビリテーション医学に必要な事項を教授する。
到達目標	細胞・組織の基本的な構造と機能について説明できる。 筋・骨格系（運動器）の構造と機能について説明できる。 人体の発生の概要を説明できる。 体表解剖学について説明できる。

授業計画

1	人体解剖学総論	石倉　健一
2	細胞・組織学	石倉　健一
3	骨格系：総論	石倉　健一
4	骨格系：脊柱、椎骨、胸郭	石倉　健一
5	骨格系：上肢帯及び上腕	石倉　健一
6	骨格系：前腕、手	石倉　健一
7	骨格系：下肢帯、大腿、下腿	田中　雅文
8	骨格系：足、頭蓋骨（1）	田中　雅文
9	骨格系：頭蓋骨（2）	田中　雅文
10	筋系：筋学総論、上肢の筋	田中　雅文
11	筋系：下肢帯	田中　雅文
12	筋系：下腿及び足	田中　雅文
13	筋系：頭頸部、体幹、横隔膜	田中　雅文
14	体表解剖学	田中　雅文
15	骨格系・筋系のまとめ	田中　雅文

教 科 書 参 考 書	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野「解剖学」（医学書院）　電子版 標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野「運動学」（医学書院）　電子版
授業方法	講義
使用機材	プロジェクター、全身骨格、分解骨
成績評価	定期試験（80％）、小テスト(20％)
留 意 点	教科書の精読、配布プリントの再確認を怠らないように。

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	解剖学Ⅱ（消化器・循環器・感覚器系等）	2	1	後期

担当教員	石倉　健一	実務経験	作業療法士として臨床現場に従事

内　　容	リハビリテーション医学を学ぶためには、人体の構造に関する解剖学の知識は必須である。解剖学は基礎医学科目の1つで、身体の構造を学ぶ学問であり、身体の機能（生理学）とも密接な関係にある。 本講義では、マクロ解剖学を中心にして、組織学、発生学、体表解剖学の知識も織り交ぜながら、リハビリテーション医学に必要な事項を教授する。
到達目標	内臓諸器官系の構造と機能について説明できる。 人体の発生の概要を説明できる。 体表解剖学について説明できる。

授業計画

1	消化器系：総論、口腔、食道
2	消化器系：胃、腸
3	消化器系：肝・膵臓、間膜、動・静脈、門脈
4	心臓血管系：心臓
5	心臓血管系：脈管学総論、肺循環
6	心臓血管系：体循環
7	心臓血管系：胎児循環、リンパ系
8	呼吸器系：鼻腔、咽頭
9	呼吸器系：喉頭、気管、肺
10	泌尿器系：腎臓
11	生殖器系：男性・女性生殖器、発生学
12	感覚器系：視覚器
13	感覚器系：聴覚器
14	内分泌系、外皮系
15	内臓系のまとめ

教 科 書 参 考 書	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野「解剖学」（医学書院）　電子版 標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野「生理学」（医学書院）　電子版
授業方法	講義
使用機材	プロジェクター、人体骨格、内臓模型
成績評価	定期試験（80％）、小テスト(20％)
留 意 点	教科書の精読、配布プリントの再確認を怠らないように。

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	解剖学Ⅲ（脳・神経系等）	2	1	前期

担当教員	石倉　健一 雲田　耕治	実務経験	作業療法士として臨床現場に従事

内　　容	脳神経系は運動や感覚、知・情・意などを司る極めて重要な役割を持ち、いわば身体の司令塔である。収集された情報は中枢神経系で処理され、その伝達は末梢神経が担っている。神経系の疾患や障害は人間が生活していく上で計り知れない影響を及ぼす。 脳解剖学は脳・脊髄などの中枢神経系と脊髄神経・脳神経・自律神経などの末梢神経系の構造、形態を、脳生理学はそれらの機能を学ぶものであり、構造と機能は密接不可分の関係にある。出来るだけ臨床に役立つ脳神経解剖学、脳神経生理学を学んでいただきたい。

到達目標	神経系の発生について説明できる。 中枢神経系の構成について説明できる。 末梢神経系の構造について説明できる。 伝導路について説明できる。

授業計画

1	神経系総論(1)　区分、発生	石倉　健一
2	神経系総論(2)　構成、髄膜と脳室系、脳の血管系	石倉　健一
3	末梢神経系(1)　脊髄神経　(1)上肢	石倉　健一
4	末梢神経系(2)　脊髄神経　(2)下肢	石倉　健一
5	末梢神経系(3)　脳神経	石倉　健一
6	末消神経系(4)　自律神経	石倉　健一
7	中枢神経系(1)　脊髄	雲田　耕治
8	中枢神経系(2)　下位脳幹(延髄、橋、中脳)	雲田　耕治
9	中枢神経系(3)　上位脳幹(間脳(視床、視床下部))と脳幹網様体	雲田　耕治
10	中枢神経系(4)　終脳(大脳皮質と髄質)	雲田　耕治
11	中枢神経系(5)　大脳辺縁系と大脳基底核	雲田　耕治
12	中枢神経系(6)　小脳	雲田　耕治
13	中枢神経系(7)　伝導路(1)・・・下行性=運動系(錐体路と錐体外路)	雲田　耕治
14	中枢神経系(8)　伝導路(2)・・・上行性＝体性感覚系(四肢・体幹と頭部・顔面)	雲田　耕治
15	中枢神経系(9)　伝導路(3)・・・特殊感覚系(感覚器、視覚、聴覚、平衡覚、味覚、嗅覚)	雲田　耕治

教 科 書 参 考 書	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野「解剖学」(医学書院)　電子版 標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野「生理学」(医学書院)　電子版

授業方法	講義

使用機材	プロジェクター、人体骨格、脳模型

成績評価	定期試験(80%)、小テスト(20%)

留 意 点	教科書の精読、配布プリントの再確認を怠らないように。

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	解剖学実習Ⅰ （骨格系・筋他）	1	1	前期

担当教員	田中　雅文 杉原　純子	実務経験	身体障害分野での実務経験あり

内　　容	人体の構造と機能に関する解剖学を習得することが必要であり、細胞、組織、骨格系、筋系について解剖学Ⅰで学んだ内容を踏まえながら骨・筋模型を用いたグループ学習、描画学習を行い、口頭試問で習熟度を確認する。 学習を通して、細胞、組織、骨格系、筋系に関する知識を深める方法を身につける。
到達目標	細胞の機能について説明できる。 組織の機能について説明できる。 骨格系の機能について説明できる。 筋系の機能について説明できる。

授業計画

1	オリエンテーション(骨)	田中　雅文
2	骨格系(頭蓋骨)	田中　雅文
3	骨格系（脊柱、胸郭）	田中　雅文
4	骨格系（付属肢、上肢）①	田中　雅文
5	骨格系（付属肢、上肢）②	田中　雅文
6	骨格系（付属肢、下肢）①	田中　雅文
7	骨格系（付属肢、下肢）②	田中　雅文
8	オリエンテーション(筋)	杉原　純子
9	筋系（上肢①）	杉原　純子
10	筋系（上肢②）	杉原　純子
11	筋系（下肢①）	杉原　純子
12	筋系（下肢②）	杉原　純子
13	筋系（体幹①）	杉原　純子
14	筋系（体幹②）	杉原　純子
15	筋系（顔面）	杉原　純子

教 科 書 参 考 書	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野「解剖学」（医学書院）　電子版 標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野「運動学」（医学書院）　電子版
授業方法	グループ学習、口頭試問
使用機材	タブレット、骨・筋単語帳、骨模型、筋模型
成績評価	定期試験(80％)、口頭試問(10％)
留 意 点	

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	解剖学実習Ⅱ （消化器・循環器・感覚器系等）	1	1	後期

担当教員	山本　真理子	実務経験	身体障害分野での実務経験あり

内　　容	人体の構造と機能に関する解剖学を習得することが必要であり、内分泌系、心臓血管系、リンパ系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、ヒトの発生について解剖学Ⅱで学んだ内容を踏まえながらグループ学習、描画学習を行い、描画試問・口頭試問で習熟度を確認する。 学習を通して、内分泌系、心臓血管系、リンパ系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、ヒトの発生に関する知識を深める方法を身につける。
到達目標	内分泌系の機能について説明できる。 心臓血管系の機能について説明できる。 リンパ系の機能について説明できる。 呼吸器系の機能について説明できる。 消化器系の機能について説明できる。 泌尿器系の機能について説明できる。 生殖器系の機能について説明できる。 ヒトの発生について説明できる。

授業計画

1	オリエンテーション
2	消化器系（概観、胃、小腸、大腸）
3	消化器系（肝臓、胆のう、膵臓）
4	循環器系（脈管系、心臓）
5	循環器系（動脈、静脈、リンパ循環）
6	呼吸器系（構造、上気道～咽頭）
7	呼吸器系（下気道～肺胞）
8	泌尿器系（腎臓）
9	泌尿器系（膀胱）
10	生殖器系（男性生殖器）
11	生殖器系（女性生殖器）
12	感覚器系（外皮、嗅覚器、味覚器）
13	感覚器系（平衡感覚器、視覚器）
14	内分泌器系（視床下部、下垂体、松果体、甲状腺）
15	内分泌器系（上皮小体、副腎、膵島他）

教 科 書 参 考 書	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野「解剖学」（医学書院）　電子版 標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野「生理学」（医学書院）　電子版
授業方法	グループ学習、口頭試問、描画試問
使用機材	タブレット、内臓課題
成績評価	定期試験(80%)、口頭試問(10%)、描画試問(10%)
留 意 点	

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	解剖学実習Ⅲ（脳・神経系等）	1	1	前期

担当教員	田中　雅文	実務経験	病院・施設の臨床実務の経験あり

内　　容	神経系について解剖学Ⅲの講義内容を踏まえて、グループ学習、描画学習を行い、描画試問・口頭試問で習熟度を確認する。 学習を通して、神経系の構造、機能に関する知識を深める方法を身に着ける。
到達目標	神経系の発生について説明できる。 中枢神経系の構成について説明できる。 末梢神経系の構造について説明できる。 伝導路について説明できる。

授業計画

1	オリエンテーション
2	髄膜と脳室系、脳の血管系
3	脊髄神経（上肢）
4	脊髄神経（下肢）
5	脳神経
6	自律神経
7	脊髄
8	下位脳幹（延髄、橋、中脳）
9	上位脳幹（間脳）と脳幹網様体
10	終脳（大脳皮質と髄質）
11	大脳辺縁系と大脳基底核
12	小脳
13	伝導路①下行性（運動系）
14	伝導路②上行性（体性感覚系）
15	伝導路③特殊感覚系

教 科 書 参 考 書	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野「解剖学」（医学書院）　電子版 標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野「生理学」（医学書院）　電子版
授業方法	グループ学習、口頭試問、描画試問
使用機材	タブレット、脳模型、脊髄模型、神経模型、神経課題
成績評価	定期試験(80%)、口頭試問(10%)、描画試問(10%)
留 意 点	

科目区分	教育内容	科 目 名		単位	学年	時期
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	生理学Ⅰ（神経・感覚・内分泌等）		2	1	前期
担当教員	伊藤　眞一 石倉　健一	実務経験	島根大学医学部の生理学講座にて講師経験あり 医療分野の臨床実務の経験あり			
内　　容	はじめに、「生きている」ということの基礎にある細胞と内部環境について講義する。その上で、神経、筋活動のもとになっている興奮という現象を説明する。ついで、反射、感覚、自律神経系、内分泌、代謝と体温、筋収縮、骨を順次講義してゆく。最後に高次脳機能とその障害について解説する。患者のおかれた状態を理解する助けになるよう、また学生諸君が将来もっと深い知識や新しい知識を必要とする時に自分で学んでゆけるだけの基礎学力を身につけられるよう、総論に重点をおいた見通しの良い講義を心がける。					
到達目標	①　細胞の基本的な構造と機能について説明できる。 ②　生体の恒常性維持について説明できる。 ③　静止電位、活動電位、シナプス電位について説明できる。 ④　反射について説明できる。 ⑤　感覚の受容機序と伝導路について説明できる。 ⑥　自律神経系の中枢内局在、末梢分布、機能について概説できる。 ⑦　内分泌器官とホルモンの種類・作用について説明できる。 ⑧　代謝・体温について説明できる。 ⑨　筋・骨の構造と機能について説明できる。 ⑩　記憶、認知、情動について説明できる。					

授業計画

1	生理学とは　細胞の構造　ホメオスタシス
2	細胞間情報伝達の一般論、静止電位・活動電位の成因
3	シナプス伝達
4	脊髄反射の経路、姿勢反射
5	感覚
6	感覚
7	自律神経
8	内分泌
9	成長・生殖
10	代謝、運動、体温
11	筋収縮（骨格筋の構造と収縮）
12	筋収縮（心筋と平滑筋：骨格筋との比較）
13	骨の生理学
14	脳（記憶と学習、情動）
15	まとめ

教 科 書 参 考 書	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野「生理学」/岡田隆夫他/医学書院　電子版
授業方法	講義
使用機材	パソコン、プロジェクター
成績評価	定期試験(100%)
留 意 点	

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	生理学Ⅱ（循環・呼吸・消化等）	2	1	後期

担当教員	白石　義光	実務経験	鳥取大学医学部の生理学講座にて講師経験あり

内　　容	血液と体液の章では、体内に存在する水分すなわち体液と、その一部である血液の機能について学ぶ。循環と呼吸の章では、体外から取り込まれた酸素や栄養素は血液に入り、循環系によって血液を体中に運ばれ、細胞の生命活動を支える循環系の機能を学ぶ。消化と吸収の章では、摂取された食物が、どのようにして消化され、吸収されるのか学ぶ。尿の生成と排泄の章では、腎臓で尿をつくり、代謝によって生じた老廃物や有害物質を排泄するとともに、血液や細胞外液の量、pH、浸透圧、電解質濃度などを調節して、体液の恒常性（ホメオスタシス）を保っているメカニズムを学ぶ。加齢の生理学では、加齢に伴って現れる生理機能の変化を学び、それにより老化を抑制する生活習慣の重要性を学ぶ。
到達目標	呼吸・循環・消化・排泄機能や血液等について理解する。

授業計画

1	血液と体液。体液の区分と組成。血液の成分と血液量。
2	赤血球とその機能。白血球とその機能。血小板とその機能。
3	止血機能。血液型。
4	循環。循環の概念。心臓の機能的解剖。心臓の電気的活動。心電図。
5	心臓の血液拍出の仕組みとその調節。血管系の役割。
6	動脈圧の調節。高血圧。
7	呼吸。呼吸器の構成。呼息と吸息。肺容量。
8	肺胞換気と肺胞内ガス組成。血液によるガス運搬。血液の pH 緩衝作用。
9	呼吸中枢。呼吸の化学的調節。低酸素症。
10	消化と吸収。消化管の構造。栄養素の消化と吸収。
11	消化管機能の調節因子。消化液分泌。
12	消化管運動。胃の運動。大腸での消化と吸収。
13	腎の構造と機能。糸球体における濾過。尿細管での再吸収と分泌。
14	腎血流とその調節。腎における酸塩基平衡。体液の調節。尿の組成と排尿。
15	加齢の生理学。老化による身体の基本的な変化。老化を変える因子。

教 科 書 参 考 書	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野 「生理学」 医学書院　岡田隆夫, 長岡正範 (電子版)
授業方法	講義
使用機材	パソコン、資料
成績評価	定期試験及び出席
留 意 点	前期の生理学Ⅰで学んだ神経系などの動物性機能は理解したものとして、また解剖学も学んだものとして講義します。 一年生でまだ医学用語、解剖学的知識が不足していると思いますので、内容は理解できなくても前もって教科書を読んで、一度でいいので目を通しておいてほしいと思います。

科目区分	教育内容	科 目 名		単位	学年	時期
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	生理学Ⅲ（神経生理等）		2	1	後期
担当教員	近藤 威	実務経験	医師として臨床業務に従事			
内　　容	生理学は、人体の機能を理解する学問である。人体の生理機能を理解するために、人体を構成する各要素（細胞-組織-器官)に分解してその個々の機能を理解し、それら要素間の相互関係や統合関係を学ぶ。 本講義では、人体の運動機能を構成する神経系の形態及び生理機能を学び、外的刺激に対する人体の反射・反応、運動・活動のしくみ(メカニズム)について構造(形態)機能を一体的に講義する。					
到達目標	人体の運動機能を構成する神経系の形態及び生理機能を説明し、外的刺激に対する人体の反射・反応、運動・活動のしくみ(メカニズム)について構造(形態)機能を一体的に説明できる。					

授業計画

1	細胞の構造と機能
2	神経の興奮伝導と末梢神経
3	中枢神経の構成と機能、メカニズム
4	脊髄・脳幹・小脳系の機能
5	間脳・大脳皮質の機能
6	脳の高次機能(学習・記憶・随意運動・脳波・覚醒と睡眠)
7	大脳基底核と脳梁、辺縁系、脳室と脳脊髄液・血液脳関門
8	意識障害、頭蓋内圧亢進症状、髄膜刺激症状、運動障害、言語障害、嚥下障害、呼吸障害
9	脳血管障害①
10	脳血管障害②
11	くも膜下出血
12	脳腫瘍
13	パーキンソン病
14	筋萎縮性側索硬化症、筋ジストロフィー
15	多発性硬化症・ギランバレー症候群

教 科 書 参 考 書	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野「生理学」 /　医学書院　電子版 病気がみえる　Vol.7　脳・神経　/　メディックメディア
授業方法	パソコンを用い、スライドで講義を行います。
使用機材	パソコン、資料
成績評価	定期試験(100%)
留 意 点	前期の解剖学Ⅰ・Ⅲ、生理学Ⅰで学んだ神経系などの動物性機能は理解しているものとして講義します。一年生でまだ医学用語、解剖学的知識が不足していると思いますので、内容は理解できなくても前もって教科書を読んでおくこと。

科目区分	教育内容	科 目 名		単位	学年	時期
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	生理学実習Ⅰ （神経・感覚・内分泌等）		1	1	前期
担当教員	石倉　健一	実務経験	身体障害分野における臨床業務に従事した経験			
内　　容	神経系、感覚、内分泌・筋の機能について生理学Ⅰで学んだ内容を深める。 学習を通して、神経・感覚・内分泌・筋の機能に関する知識を深める方法を身に付ける。					
到達目標	神経系の機能について説明できる。 感覚系の機能について説明できる。 内分泌系の機能と作用について説明できる。					

授業計画

1	細胞の構造とホメオスタシス
2	細胞間情報伝達の一般論、静止電位・活動電位の成因
3	神経系の基礎
4	脊髄反射の経路、姿勢反射
5	感覚①
6	感覚②
7	自律神経系
8	脳（記憶と学習、情動）
9	内分泌
10	成長・生殖
11	代謝と運動
12	体温と運動
13	骨格筋の構造と収縮
14	心筋と平滑筋の構造と収縮
15	骨生理

教 科 書 参 考 書	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野「生理学」/岡田隆夫他/医学書院　電子版
授業方法	講義、グループ演習
使用機材	パソコン、プロジェクター、模型
成績評価	定期試験(80%)、各テーマ別課題(20%)
留 意 点	

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	生理学実習Ⅱ （循環・呼吸・消化等）	1	1	後期

担当教員	田中　雅文	実務経験	身体障害分野における臨床業務に従事した経験

内　　容	循環・呼吸・消化・排尿の機能、加齢に伴う生理学的変化について生理学Ⅱで学んだ内容を深める。 学習を通して、循環・呼吸・消化・排尿の機能、加齢に伴う生理学的変化に関する知識を深める方法を身に付ける。
到達目標	循環系の機能について説明できる。 呼吸系の機能について説明できる。 消化系の機能について説明できる。 排尿系の機能について説明できる。 加齢による生理学的変化について説明できる。

授業計画

1	循環系：血液と体液
2	循環系：赤血球、白血球、血小板の構造と機能
3	循環系：止血機能、血液型
4	循環系：心臓の機能と解剖、電気的活動と心電図
5	循環系：心拍出とその調整
6	循環系：血管系の役割と調整
7	呼吸系：呼吸器の機能と解剖
8	呼吸系：肺胞内換気、アシドーシスとアルカローシス
9	呼吸系：呼吸中枢の機能と調整
10	消化系：消化管の構造と機能、栄養素の消化と吸収
11	消化系：消化の調節因子と消化液の分泌
12	消化系：消化管の運動と調整
13	排尿系：腎の構造と機能
14	排尿系：腎血流と体液の調節
15	加齢の生理

教 科 書 参 考 書	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野「生理学」/岡田隆夫他/医学書院　電子版
授業方法	講義、グループ演習
使用機材	パソコン、プロジェクター
成績評価	定期試験(100%)
留 意 点	

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	生理学実習Ⅲ （神経生理等）	1	1	後期

担当教員	山本　真理子	実務経験	身体障害分野における臨床業務に従事した経験

内　　容	神経系（中枢神経系、末梢神経系）の機能について生理学Ⅲで学んだ内容を踏まえながらグループ学習を行い、各自学習内容をレポートにまとめる。 学習を通して、神経系（中枢神経系、末梢神経系）の機能に関する知識を深める方法を身に付ける。
到達目標	中枢神経系の機能について説明できる。 末梢神経系の機能について説明できる。

授業計画

1	大脳辺縁系、大脳新皮質の機能局在
2	脊髄反射
3	中脳・橋・延髄
4	脳幹網様体と脳神経
5	視床・視床下部、脳下垂体系ホルモン
6	小脳と大脳基底核、伝導路
7	脳波と睡眠、大脳誘発電位
8	ことば（言語障害）、記憶
9	意識障害
10	嚥下障害、呼吸障害、排泄障害
11	脳血管障害①
12	脳血管障害②
13	神経変性疾患（Parkinson 病、筋萎縮性側索硬化症）
14	神経筋疾患（ギランバレー症候群、多発性硬化症、重症筋無力症、筋ジストロフィー）
15	まとめ

教 科 書 参 考 書	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野「生理学」/岡田隆夫他/医学書院　電子版
授業方法	講義、グループ学習
使用機材	パソコン、プロジェクター
成績評価	定期試験(100％)
留 意 点	

科目区分	教育内容	科 目 名		単位	学年	時期
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	運動学Ⅰ（総論）		2	1	前期
担当教員	山崎　敦広	実務経験	身体障害分野における臨床業務に従事した経験			
内　　容	人間は様々な活動（運動）を営むことができる生物ということを理解できるようになるため，人間の活動（運動）を細分化し，その基本的な関節運動のメカニズムを学ぶ。					
到達目標	関節運動のメカニズムについて理解する。 ① 筋・骨格系（運動器）の構造と機能について説明できる。 ② 関節の種類とその構成要素について説明できる。 ③ 四肢の関節運動のメカニズムについて説明できる。					

授業計画

Ⅰ	生体力学
2	骨・軟骨の形状と特徴
3	人体の構造と機能
4	骨・関節の種類・構造・機能
5	骨格筋の構造と機能
6	肩関節の運動と筋
7	演習： 肩の代償運動
8	肘・手指の運動と筋
9	脊柱の運動と筋
10	股関節の運動と筋
11	膝・足関節・足趾の運動と筋
12	顔面・頸部の運動と筋
13	姿勢
14	歩行
15	演習: 起立

教 科 書 参 考 書	1.標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野「運動学」/岡田隆夫他/医学書院　電子版
授業方法	講義、スライドと配布資料を中心に進める
使用機材	プロジェクター・全身骨格・骨標本
成績評価	定期試験(80%)、小テスト(20%)
留 意 点	

科目区分	教育内容	科 目 名		単位	学年	時期
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	運動学Ⅱ（各論）		2	1	後期
担当教員	石倉　健一	実務経験	身体障害分野における臨床業務に従事した経験			
内　　容	人間の運動は主として筋肉の収縮力を原動力として骨格に伝達されている。 人体の解剖学・生理学・力学的要素などを関連付けて身近な姿勢・運動・動作・行為・活動について学ぶ。					
到達目標	身体の運動・動作の基礎知識を身につけ、動作分析について理解する。 ① ヒトの運動・動作について説明することができる。 ② 静的・動的姿勢について説明することができる。 基本動作のメカニズムについて理解する。 ①基本動作の種類（寝返り，起き上がり，立ち上がり，歩行）について説明できる。 ②基本動作のメカニズムについて説明できる。					

授業計画

1	バイオメカニクス
2	てこと身体運動
3	姿勢(重心線と安定性)
4	姿勢(姿勢と重心位置・支持基底面の関係)
5	体幹・顔面・頭頸部の運動①
6	体幹・顔面・頭頸部の運動②
7	寝返り動作の分析
8	起き上がり動作の分析①
9	起き上がり動作の分析②
10	立ち上がり動作の分析①
11	立ち上がり動作の分析②
12	歩行(歩行速度・歩幅・歩行率)
13	歩行(歩行周期・歩行時の関節の動き)
14	演習(歩行)
15	運動と動作の分析

教 科 書 参 考 書	1.標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野「運動学」/岡田隆夫他/医学書院　電子版
授業方法	講義・演習
使用機材	スライド・パソコン・配布資料
成績評価	定期試験(80%)、レポート課題(20%)
留 意 点	

科目区分	教育内容	科 目 名		単位	学年	時期
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	人間発達学		2	1	後期
担当教員	安部　あかね	実務経験	作業療法士として発達障害分野の臨床経験あり			
内　　容	理学療法・作業療法は、対象となる人間を理解することが大変重要である。 本講義では、対象者の心身の変化を単なる症状の『点』ではなく、生涯にわたる成長と適応の『線』として捉え、運動・認知・社会性が複雑に絡み合う生活技能の全体像を、各ライフステージの課題に即して深く理解できることを目指す。					
到達目標	・発達の定義、原則を理解する。 ・人間発達における各側面の基本的な発達過程を理解する。 ・人間の発達に興味を持つ。					

授業計画	
1	オリエンテーション、人間発達とは？（発達理論とその歴史）
2	胎生期の発達、原始反射
3	運動の発達(概論、粗大運動)
4	運動の発達(粗大運動)
5	運動の発達(上肢機能)
6	運動の発達(上肢機能)
7	認知機能の発達
8	認知機能の発達
9	情緒・社会性の発達
10	情緒・社会性の発達
11	コミュニケーションの発達
12	日常生活動作の発達
13	日常生活動作の発達
14	遊び・仕事の発達
15	各種評価法について

教 科 書 参 考 書	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　「人間発達学」電子版/岩﨑清隆/医学書院
授業方法	講義、演習
使用機材	パソコン、プロジェクター、マット、バランスボード、バルーン等
成績評価	定期試験、授業態度、出席など総合的に評価する
留 意 点	・動きやすい服装で参加してください。 ・小テストを実施します。定期試験は、基本的に小テストから出題します。

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	内科学	2	1	後期

担当教員	山田　稔 雲田　耕治	実務経験	医師として病院にて勤務経験あり 作業療法士として勤務経験あり

内　　容	内科疾患の基礎となる病因やその特徴を知り、治療法を理解する。

到達目標	①　疫学，予後について説明できる。 ②　病因，症候について説明できる。 ③　評価，検査（画像・生理検査を含む），診断について説明できる。 ④　リハビリテーション医療について説明できる。 ⑤　その他の治療について説明できる。

授業計画

1	感染症　総論①	山田　稔
2	老年期疾患	山田　稔
3	感染症　各論②	山田　稔
4	消化管疾患	山田　稔
5	肝胆膵疾患	山田　稔
6	内科学総論、医学の歴史	雲田　耕治
7	血液・造血器疾患	雲田　耕治
8	内科的診断と治療	雲田　耕治
9	症候学	雲田　耕治
10	循環器疾患	雲田　耕治
11	免疫不全、アレルギー等	雲田　耕治
12	呼吸器疾患	雲田　耕治
13	腎・泌尿器疾患	雲田　耕治
14	代謝性疾患	雲田　耕治
15	内分泌疾患	雲田　耕治

教 科 書 参 考 書	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　内科学　電子版 標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　病理学　電子版

授業方法	講義

使用機材	パソコン、プロジェクター

成績評価	定期試験(100%)

留 意 点	

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	臨床心理学	2	1	後期

担当教員	浪花　佑典	実務経験	臨床心理士、公認心理師として精神科やリハビリテーション施設での臨床経験あり

内　　容	本講義は、医療専門職として患者や被援助者の心理状態を理解し、適切なコミュニケーションと支援を行うための基礎的能力を養うことを目的とする。臨床心理学の基本概念、心理アセスメント、主要な心理療法、ならびに専門領域における心理的介入の理論を学び、作業療法・理学療法の実践に応用できる心理学的視点を身につける。

到達目標	①　臨床心理学の基本的な考え方や代表的な理論を説明できる。 ②　心理アセスメントの種類や目的を理解し、どのような場面で使うかを説明できる。 ③　主要な精神疾患や心理的問題の特徴を説明できる。

授業計画

1	臨床心理学の概要
2	おもな発達・人格理論 1
3	おもな発達・人格理論 2
4	おもな発達・人格理論 3
5	主要な精神疾患の理解 1
6	主要な精神疾患の理解 2
7	心理アセスメント 1
8	心理アセスメント 2
9	心理アセスメント 3
10	代表的な心理療法 1
11	代表的な心理療法 2
12	代表的な心理療法 3
13	専門領域への応用 1
14	専門領域への応用 2
15	まとめ

教 科 書 参 考 書	橋本和幸著:専門職のための臨床心理基礎　第 3 版　ムイスリ出版
授業方法	講義、演習
使用機材	パソコン、プロジェクター
成績評価	出席状況、定期試験
留 意 点	講義形式を基本としますが、理解を深めるために必要に応じて演習を取り入れます。

科目区分	教育内容	科 目 名		単位	学年	時期
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	病理学概論		2	1	後期
担当教員	並河　徹	実務経験	医師として病院にて実務経験あり。			
内　　容	病理学は、病気に侵された臓器の肉眼像、顕微鏡像をとおして、病気の原因、成り立ちを学ぶ学問です。さまざまな病気の名前とその病気に特徴的な臓器の変化（肉眼像、顕微鏡像）が結び付けられるようトレーニングしていきます。					
到達目標	①　病因論（内因・外因を含む）について説明できる。 ②　病理学的変化（血行障害，進行性・退行性病変，炎症・感染・免疫・アレルギー，腫瘍・新生物，奇形・遺伝を含む）について説明できる。 ③　生体反応（ホメオスターシス，ストレス）について説明できる。					

授業計画

1	イントロダクション・細胞障害
2	創傷治癒
3	循環障害(1)
4	循環障害(2)
5	炎症
6	免疫
7	先天性疾患・遺伝性疾患
8	腫瘍(1)
9	腫瘍(2)
10	(各論) 循環器
11	(各論) 呼吸器
12	(各論) 消化器
13	(各論) 肝・胆・膵
14	(各論) 血液・リンパ節
15	(各論) 神経・運動器

教 科 書 参 考 書	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　病理学　医学書院　電子版
授業方法	講義
使用機材	パソコン
成績評価	授業態度及び試験
留 意 点	

科目区分	教育内容	科 目 名		単位	学年	時期
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	小児科学		2	1	後期
担当教員	田中　雄二	実務経験	医師として病院にて実務経験あり。			
内　　容	理学・作業療法の対象となる可能性の高い神経・筋・骨系疾患とそれと関連の深い新生児・未熟児疾患や先天異常、遺伝病を中心に講義する。 また、対象児が上記以外の疾病を併せ持つことは稀ではなく、将来、小児に接する上で必要な色々な病状や病態についても概説する。					
到達目標	①　疫学，予後について説明できる。 ②　病因，症候について説明できる。 ③　評価，検査（画像・生理検査を含む），診断について説明できる。 ④　リハビリテーション医療について説明できる。 ⑤　その他の治療について説明できる。 ⑥　小児の障害の一般的疾患について説明できる。					

授業計画

1	小児科学概論、診断と治療の概要
2	新生児・未熟児疾患
3	同上
4	先天異常と遺伝病
5	同上
6	神経・筋・骨系疾患
7	同上
8	同上
9	循環器疾患
10	呼吸器疾患、感染症
11	感染症、消化器疾患
12	内分泌・代謝疾患、血液疾患
13	免疫・アレルギー疾患、膠原病
14	腫瘍性疾患、腎・泌尿器、生殖器疾患
15	心身症・神経症、重症心身障害児、眼科・耳鼻科的疾患

教 科 書 参 考 書	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野「小児科学」電子版（医学書院）
授業方法	講義
使用機材	適宜，パソコンによるスライド提示，プリント配布を行う
成績評価	試験を重視する
留 意 点	

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門基礎分野	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	2	1	前期

担当教員	澤田　勝寛、宇都宮　賢一 雲田　耕治	実務経験	医師として病院での実務経験あり。また保健所長を歴任し様々な事業に携わる。作業療法士として病院での臨床経験あり

内　　容	リハビリテーション概論の講義は、現代社会において、平均寿命および健康寿命を延伸するのに必要な「リハビリテーション」について総括的に理解を深めるとともに、専門職として「医の倫理」について理解を一層深めることを目的としたものです。リハビリテーションの目的、過程、評価についての基本的方法論を理解することを、講義の到達目標としています。 病気にはまだまだ原因不明のものが多くあります。また、ひとりだけで守れない病気が数多くあります。予防すること、早期発見、早期対応は大切です。一次予防、二次予防、三次予防のポイントはどこにあるのでしょう。また、気をつけても、事故にあったり、病気になることもあります。リハ医学、介護予防は、ある時点からの人間としての復権を目指し努力するものです。私は「リハビリテーション概論」の目的、過程、評価、リハビリテーションを支える社会保障制度を中心として講義します。
到達目標	①　健康の定義について説明できる。 ②　健康に関連する概念の定義について説明できる。 ③　人の健康行動を理解するために基礎となる理論について説明できる。 ④　健康の社会的決定要因について説明できる。 ⑤　対象者の人権を擁護する手段・方法（インフォームド・コンセント等）について説明できる。 ⑥　多職種連携の意義を説明できる。 ⑦　他の職種の役割を説明できる。 ⑧　保健・医療・福祉における多職種連携のあり方を具体的に説明できる。 ⑨　様々な人々との協働を通して、保健・医療・福祉の諸課題に対処できる。

授業計画

1	医療を志すみなさんへ	澤田　勝寛
2	リハビリテーションとは	雲田　耕治
3	リハビリテーションと疾病	雲田　耕治
4	障害について　病気と障害　ICF	雲田　耕治
5	ICF について	雲田　耕治
6	ライフサイクルについて	雲田　耕治
7	ノーマライゼーションについて、障害者の心理適応、リハビリテーションの段階について	宇都宮　賢一
8	リハビリテーションの過程(評価とプログラム)・チームアプローチを含む	宇都宮　賢一
9	リハビリテーションの過程(リハの手段)	宇都宮　賢一
10	疾患概要（身体障害分野）	宇都宮　賢一
11	疾患概要(精神障害分野)	宇都宮　賢一
12	日本の医療制度と社会保障制度	宇都宮　賢一
13	介護保険	宇都宮　賢一
14	障害者総合支援法	宇都宮　賢一
15	医療とリハビリテーション	澤田　勝寛

教科書 参考書	教科書:入門リハビリテーション概論　医歯薬出版　電子版
授業方法	講義、グループワーク（各自ノートを持参）
使用機材	疾病の予防、リハビリテーションに関連のあるビデオ、パワーポイントを使用
成績評価	定期試験(100%)
留意点	各学科の定期試験、国家試験には、医療法、身分法等の法律的なこと、公衆衛生、健康の定義等、定説になったこと、近年話題になっている医療情勢、数字的なことがよく出ています。

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門分野	基礎作業療法学	作業療法概論Ⅰ(定義・歴史等)	2	1	前期

担当教員	石倉 健一 杉原 純子	実務経験	作業療法士として病院での臨床経験あり

内　　容	本講義では作業療法の全体像を把握できるように、まず、作業療法の体系や機能を歴史的発展過程の中で捉えたうえで、近年の医療や保健福祉における作業療法の役割と今後の展望について概説する。

到達目標	① 作業療法の定義について説明できる。 ② 作業療法の歴史について説明できる。 ③ 作業療法の領域と対象について説明できる。 ④ 実際の臨床現場における作業療法士の役割を理解する。 ⑤ 実際の臨床現場における多職種連携について理解する。

授業計画

1	オリエンテーション 作業とは	石倉 健一
2	作業療法士の活動の場、作業療法実践の概要	石倉 健一
3	作業療法の定義、理学療法士・作業療法士法、作業療法ガイドライン	石倉 健一
4	作業の定義、作業の分類、ライフステージと作業、環境－健康-作業	石倉 健一
5	臨床現場について学ぶ(作業療法士の役割)	杉原 純子
6	臨床現場について学ぶ(多職種連携について)	杉原 純子
7	臨床現場について学ぶ(グループ事前課題)	杉原 純子
8	臨床現場について学ぶ(グループ事前課題)	杉原 純子
9	臨床現場について学ぶ(グループ事前課題)	杉原 純子
10	病院見学～実際の臨床現場を学ぶ～	杉原・石倉
11	病院見学～実際の臨床現場を学ぶ～	杉原・石倉
12	病院見学～実際の臨床現場を学ぶ～	杉原・石倉
13	病院見学振り返り、事後課題、まとめ	杉原 純子
14	病院見学振り返り、事後課題、まとめ	杉原 純子
15	発表	杉原・石倉

教 科 書 参 考 書	標準作業療法学 専門分野 作業療法概論 医学書院 電子版
授業方法	講義、演習、グループワーク、病院見学、プレゼンテーション
使用機材	パソコン、プロジェクター
成績評価	定期試験(40%)、課題(30%)、発表(30%)
留 意 点	

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門分野	基礎作業療法学	作業療法概論Ⅱ (各分野の治療学・倫理等)	2	1	後期

担当教員	雲田　耕治 杉原　純子	実務経験	作業療法士として病院での臨床経験あり

内　　容	本授業では作業療法の全体像を把握できるように、作業療法の体系や機能を時代、社会背景の変化に応じた医療、保健、福祉の中で作業療法の役割を概説し、代表的な作業療法の対象領域についての初歩的な知識を習得する。
到達目標	① 作業療法のプロセスについて説明できる。 ② 作業療法の実践について説明できる。 ③ コンプライアンス・法令違反について説明できる。 ④ ハラスメントについて説明できる。 ⑤ 個人情報保護法について説明できる。

授業計画

1	作業療法とは・作業療法の対象	雲田　耕治
2	作業療法の実際①(作業療法の理論)	雲田　耕治
3	作業療法の実際②(領域別作業療法の実際)	雲田　耕治
4	作業療法の実際③(圏域別作業療法の実際)	雲田　耕治
5	作業療法の実際④(急性期・回復期の作業療法の実際)	雲田　耕治
6	作業療法の実際⑤(維持期・終末期の作業療法の実際)	雲田　耕治
7	作業療法過程①(処方、情報収集、評価計画・実施)	雲田　耕治
8	作業療法過程②(作業療法計画・実施、再評価・フォローアップ)	雲田　耕治
9	リハビリテーション多職種への理解①(理学療法士)	杉原　純子
10	リハビリテーション多職種への理解②(言語聴覚士)	杉原　純子
11	リハビリテーション多職種への理解③(看護師)	杉原　純子
12	手話講習①	杉原　純子
13	手話講習②	杉原　純子
14	認知症サポーター研修①	杉原　純子
15	認知症サポーター研修②	杉原　純子

教 科 書 参 考 書	標準作業療法学　専門分野　作業療法概論　医学書院　電子版 これで解決!　PTOTST 臨床実習まるごとガイド　電子版
授業方法	講義、グループワーク
使用機材	パソコン、プロジェクター、その他
成績評価	定期試験 100％
留 意 点	

科目区分	教育内容	科 目 名		単位	学年	時期
専門分野	基礎作業療法学	基礎作業学Ⅰ（総論）		2	1	前期
担当教員	杉原　純子	実務経験	作業療法士として病院での臨床経験あり			
内　　容	作業療法の治療手段である「作業」について理解を深め、基礎的な作業（活動）分析方法、活動の治療的応用法を習得する。					
到達目標	①　作業について説明できる。 ②　作業と運動生理機能との関係について説明できる。 ③　作業と心理機能との関係について説明できる。 ④　ライフステージと作業について説明できる。 ⑤　作業分析について説明できる。 ⑥　代表的な作業についての手順が説明できる。 ⑦　代表的な作業の指導ができる。 ⑧　代表的な作業の作業分析ができる。					

授業計画

1	オリエンテーション・基礎作業学の定義①
2	作業療法と作業について
3	作業分析の理論と方法　精神機能的理解
4	作業分析の理論と方法　精神機能的理解
5	作業分析の理論と方法　身体機能的理解
6	作業分析の理論と方法　身体機能的理解
7	作業分析の理論と方法　発達学的理解
8	作業分析の理論と方法　人間関係学的理解
9	作業分析の理論と方法　作業遂行の包括的理解
10	作業療法の包括的理解①　カナダ作業遂行モデル、人間作業モデル、作業科学
11	作業療法の包括的理解②　演習
12	作業の治療的応用にための基本理論　学習
13	作業の治療的応用にための基本理論　教育
14	包括的作業分析の実際①
15	包括的作業分析の実際②

教 科 書 参 考 書	標準作業療法学　専門分野　基礎作業学　電子版
授業方法	講義、演習
使用機材	パソコン、プロジェクター
成績評価	定期試験 100％
留 意 点	私たち作業療法士は「作業」を通して治療を行い、患者様の生活にアプローチしていきます。 本講座では、「作業」について楽しく理解を深めていきましょう。

科目区分	教育内容	科 目 名		単位	学年	時期
専門分野	基礎作業療法学	基礎作業実習		1	1	後期
担当教員	野津　明美　片山　優子 石倉　健一	実務経験	陶芸家 作業療法士			
内　　容	・作業療法で実際に用いられる作業種目を経験し、基礎技術を学習する ・作業における運動機能、知覚、認知機能、交流・コミュニケーション、リスク管理等から、心身に対する治療意義を考察する					
到達目標	①　作業について説明できる。 ②　作業と運動生理機能との関係について説明できる。 ③　作業と心理機能との関係について説明できる。 ④　ライフステージと作業について説明できる。 ⑤　作業分析について説明できる。 ⑥　代表的な作業についての手順が説明できる。 ⑦　代表的な作業の指導ができる。 ⑧　代表的な作業の作業分析ができる。					

授業計画

1	オリエンテーション	石倉　健一
2	レクリエーション	石倉　健一
3	陶芸	野津　明美
4	陶芸	野津　明美
5	陶芸	野津　明美
6	陶芸	野津　明美
7	陶芸	野津　明美
8	陶芸	野津　明美
9	陶芸	野津　明美
10	陶芸	野津　明美
11	革細工	片山　優子
12	革細工	片山　優子
13	革細工	片山　優子
14	革細工	片山　優子
15	革細工	片山　優子

教 科 書 参 考 書	標準作業療法学　専門分野　基礎作業学　電子版
授業方法	講義、実習
使用機材	パソコン、プロジェクター
成績評価	定期試験 90% 提出物（レポート、各作品提出）10%
留 意 点	● 汚れてもよい服装、エプロンなど、タオル ● 初回に雑巾を持参（1 人 1 枚） ● 作品の手順や作成することによる意義を考察してみましょう。また、自分のみでなく周りの人の動きや関わりにも注目してみましょう。 ※毎回、講義終了後に作業実習室の清掃を行います。

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門分野	作業療法評価学	作業療法評価法Ⅰ	1	1	前期

担当教員	杉原 純子 田中 雅文	実務経験	身体障害分野で作業療法士として従事した経験

内　　容	作業療法評価の意義と目的について学ぶ。 バイタルサイン測定、意識レベル、関節可動域測定、筋力検査、バランス検査について、講義と実技を行う。
到達目標	作業療法評価の意義と目的について説明できる。 バイタルサイン測定について説明・模倣できる。 意識レベルについて説明・模倣できる。 関節可動域測定について説明・模倣できる。 筋力検査について説明・模倣できる。 バランス検査について説明・模倣できる。

授業計画

1	作業療法評価の意義と目的	杉原　純子
2	バイタルサイン測定・意識レベル	杉原　純子
3	関節可動域測定①	杉原　純子
4	関節可動域測定②	杉原　純子
5	関節可動域測定③	杉原　純子
6	関節可動域測定④	杉原　純子
7	関節可動域測定⑤	杉原　純子
8	関節可動域測定⑥	杉原　純子
9	関節可動域測定⑦	杉原　純子
10	筋力検査①握力・ピンチ力	田中　雅文
11	筋力検査②徒手筋力検査①	田中　雅文
12	筋力検査③徒手筋力検査②	田中　雅文
13	筋力検査④徒手筋力検査③	田中　雅文
14	筋力検査⑤徒手筋力検査④	田中　雅文
15	筋力検査⑥徒手筋力検査⑤	田中　雅文
16	筋力検査⑦徒手筋力検査⑥	田中　雅文
17	筋力検査⑧徒手筋力検査⑦	田中　雅文
18	筋力検査⑨徒手筋力検査⑧	田中　雅文
19	バランス検査①	田中　雅文
20	バランス検査②	田中　雅文
21	バランス検査③	田中　雅文

教 科 書 参 考 書	標準作業療法学　専門分野「作業療法評価学」医学書院　電子版 新・徒手筋力検査法　原著第 10 版 運動療法のための機能解剖学的触診技術　上肢　　メジカルビュー社　電子版 運動療法のための機能解剖学的触診技術　下肢・体幹　メジカルビュー社　電子版
授業方法	講義　実技
使用機材	パソコン、プロジェクター、角度計、メジャー、バランス計
成績評価	定期試験(80%)、実技試験(20%):関節可動域測定、徒手筋力検査 ※定期試験と実技試験の受験結果をもって最終成績とする。 定期試験、実技試験は各試験で 6 割以上の点数を満たすこと。
留 意 点	

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門分野	作業療法評価学	作業療法評価法Ⅱ	1	1	後期

担当教員	田中　雅文 雲田　耕治	実務経験	身体障害分野で作業療法士として従事した経験

内　　容	身体機能評価の形態測定と運動器障害を生じる代表疾患（脊髄損傷、末梢神経損傷、関節リウマチ、骨関節疾患、手外科、熱傷）に対する基本的な作業療法評価について、講義と実技を行う。
到達目標	形態測定について説明・模倣できる。 脊髄損傷評価について説明・模倣できる。 末梢神経損傷評価について説明・模倣できる。 関節リウマチ評価について説明・模倣できる。 骨関節疾患評価について説明・模倣できる。 手外科評価について説明・模倣できる。 熱傷評価について説明・模倣できる。

授業計画

1	形態測定①	田中　雅文
2	形態測定②	田中　雅文
3	脊髄損傷の概要	田中　雅文
4	脊髄損傷の評価①	田中　雅文
5	脊髄損傷の評価②	田中　雅文
6	末梢神経損傷の概要	田中　雅文
7	末梢神経損傷の評価①	田中　雅文
8	末梢神経損傷の評価②	田中　雅文
9	末梢神経損傷の評価③	田中　雅文
10	関節リウマチの概要	雲田　耕治
11	関節リウマチの評価①	雲田　耕治
12	関節リウマチの評価②	雲田　耕治
13	骨関節疾患の概要	雲田　耕治
14	骨関節疾患の評価①	雲田　耕治
15	骨関節疾患の評価②	雲田　耕治
16	骨関節疾患の評価③	雲田　耕治
17	手外科の概要	雲田　耕治
18	手外科の評価①	雲田　耕治
19	手外科の評価②	雲田　耕治
20	熱傷の概要	田中　雅文
21	熱傷の評価	田中　雅文

教 科 書 参 考 書	標準作業療法学　専門分野 「作業療法評価学」 医学書院　電子版
授業方法	講義、実技
使用機材	パソコン、プロジェクター、メジャー、各種検査道具
成績評価	定期試験(95%)　実技試験(5%):形態測定 ※定期試験と実技試験の受験結果をもって最終成績とする。 定期試験、実技試験は各試験で 6 割以上の点数を満たすこと。
留 意 点	

※このシラバスは１年間大切に保管すること
※各科目の初講日には必ず学校へ持ってくること

学籍番号:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

氏　　名:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿